③資料作成・公開に関する事業一覧

プロジェクト名	担当部門	頁
文化財情報基盤の整備・ウェブサイトの運用（企06）	企画情報部	53
専門的アーカイブの拡充（資料閲覧室運営）（企07）	企画情報部	55
無形文化遺産に関わる音声・画像・映像資料のデジタル化（無03）	無形文化遺産部	56
広報企画事業（ニュースレター・概要・年報）（企08）	企画情報部	57

文化財情報基盤の整備・ウェブサイトの運用（③企06-15-5/5）

目　　的

文化財関係の情報を収集して積極的に発信するため、ネットワークのセキュリティ強化及び高速化等に対応した情報基盤の整備充実を図る。また、システム面から文化財に関する専門的アーカイブの拡充、データベースの充実を支援する。

成　　果

１．情報システムの整備

情報システムの整備は、広報委員会の情報システム部会長・部会員で検討のうえ実施している。平成27年度には日常的なネットワーク管理業務のほか、下記を実施した。

ア）センタースイッチ及びフロアスイッチを更新した。更新にあたり、機器の選択肢を増し、更新費用を削減するため、フロアスイッチ－センタースイッチ間のケーブルを光からメタルに変更した。

イ）無線LANアクセスポイントを増設するとともに、制御用サーバを導入し、運用の安定化を図った。

ウ）大容量ストレージ構築のための基本システムを導入した。このシステムは、ストレージを増設することによりペタバイト級の大容量ストレージを構成でき、WWWサーバ等の仮想化のための基礎となる。

２．ウェブサイトの運用

研究所全体の広報、研究情報の発信の一環としてウェブサイトの運用を行っている。各部・センターのサイトは各担当者が更新する一方、催事や刊行物等の更新情報は研究所ホームページからリンクし告知することで、情報発信の効率化と有効化を図っている。ウェブサイトの軽微な変更、データベースへの情報の追加、情報発信は随時実施している。

ア）広報・普及に関して、「活動報告」（日英2カ国語）のWordPressへの移行を実施し、年月や部門などの項目による分類及び全文の検索が可能となった。また、メールマガジン（日本語）、Facebook及びTwitter（いずれも日英2カ国語）により、国内外の文化財関係者に対して活動報告や催事などウェブサイトの更新情報を中心に提供している。

イ）昨年度の黒田記念館ウェブサイトのリニューアル及び「黒田清輝日記」のWordPress化に続き、「黒田清輝作品集」をWordPressに移行、データベース化した。

ウ）WordPressによるデータベースを引き続き随時整備・公開した。新たに公開したデータベースは上記のほか「白馬会関係新聞記事」「『美術画報』所載図版データベース」である。

エ）ウェブサイトへのアクセス（訪問者数）は1,941,504件であった。

３．研究成果の発表

ア）2015東アジア文化遺産保存国際シンポジウム in 奈良で、文化財アーカイブズ研究室と共同で東京文化財研究所の文化財アーカイブ構築に関して発表した。

イ）2016（平成28）年３月23日に開催された研究会で、文化財データベース・アーカイブに関する東京文化財研究所の取り組みについて報告した。

ウェブサイトアクセスランキング（平成27年度　上位10位まで）

1	全体 index	6	黒田記念館全体
2	『日本美術年鑑』所載物故者記事	7	ガラス乾板データベース
3	『保存科学』PDF	8	『無形文化遺産研究報告』PDF
4	黒田記念館資料編（日記、書簡、作品一覧等）	9	研究資料データベース
5	『日本美術年鑑』所載美術界年史（彙報）記事	10	企画情報部全体

③資料作成・公開 Area13, 20

ウェブサイトの主な更新履歴（定期刊行物の公開、活動報告、公募情報を除く）

年月日	更新内容	関係部局
15.4.10	「これからの文化財防災―災害への備え」公開	文化財レスキュー受託事業研究会事務局
15.5.13	「「かたち」の生成をめぐって―イケムラレイコの場合」開催案内	企画情報部
15.6.17	デジタルブック版『未来につなぐ人類の技 14　近代テキスタイルの保存と修復』公開	保存修復科学センター
15.8.7	黒田記念館所蔵黒田清輝作品集　公開	企画情報部
15.9.1	『文化財展示収蔵施設におけるカビのコントロールについて』公開	保存修復科学センター
15.9.28	第49回オープンレクチャー　モノ／イメージとの対話 開催案内	企画情報部
15.10.13	無形文化遺産（伝統技術）の伝承に関する研究会Ⅱ「染織技術の伝承と地域の関わり」開催案内	無形文化遺産部
15.10.16	「東南アジアの遺跡保存をめぐる技術的課題と展望」開催案内	文化遺産国際協力センター
15.10.20	白馬会関係新聞記事 リニューアル公開	企画情報部
15.10.20	第10回無形文化遺産部公開学術講座「邦楽の旋律とアクセント－中世から近世へ－」開催案内	無形文化遺産部
15.10.22	海外における日本美術関係資料担当者との交流会　開催案内	企画情報部
15.12.11	第29回近代の文化遺産の保存修復に関する研究会「近代文化遺産の保存理念と修復理念」開催案内	保存修復科学センター
15.12.18	シンポジウム「紛争と文化遺産－紛争下・紛争後の文化遺産保護と復興－」開催案内	文化遺産国際協力センター
16.1.6	『臭化メチル全廃から10年：文化財のIPMの現在』公開	保存修復科学センター
16.1.19	「文化財の保存環境」に関する研究会「実験用実大展示ケース用いた濃度予測と清浄化技術の評価」開催案内	保存修復科学センター
16.1.21	2015年ネパール・ゴルカ地震による被災文化遺産に関するセミナー　開催案内	文化遺産国際協力センター
16.1.21	「ファラオの至宝をまもる」―大エジプト博物館保存修復センタープロジェクト終了記念報告会　開催案内	文化遺産国際協力センター
16.2.10	「「かたち」の生成をめぐって―イケムラレイコの場合」公開	企画情報部

発表

・山梨絵美子ほか「文化財研究情報アーカイブの構築―東京文化財研究所の取り組み」2015東アジア文化遺産保存国際シンポジウムin奈良　奈良春日野国際フォーラム甍～I・RA・KA～　15.8.27-28

・福永八朗「東文研の文化財データベース」文化財データベース・アーカイブの構築と活用に関する研究会　東京文化財研究所　16.3.23

研究組織

○二神葉子、山梨絵美子、津田徹英、塩谷純、小林公治、小林達朗、皿井舞、安永拓世、橘川英規、城野誠治、福永八朗、小山田智寛、高橋佑太（以上、企画情報部）　広報委員（情報システム部会）：川野邊渉（文化遺産国際協力センター長）　各部門情報システム部会員：平出秀文、中濱拓郎（以上、研究支援推進部）、皿井舞（企画情報部）、飯島満（無形文化遺産部）、吉田直人（保存修復科学センター）、加藤雅人（文化遺産国際協力センター）

専門的アーカイブの拡充（資料閲覧室運営）（③企07-15-5/5）

目　　的

文化財関連資料の公開機関としての周知の広がりを踏まえ、①受け入れた文化財関連の図書などの文字資料や、作成したアナログ・デジタル画像資料の登録管理、②閲覧室で月・水・金の週3回の一般利用者へ所蔵資料の提供、③データベースの作成、検索システムの構築・ウェブサイト上での諸情報の提供を通常業務とするとともに、提供する資料や情報の質に主眼を置き、より専門性の高い文化財関連資料や情報の収集・構築・公開の場として専門的アーカイブの充実を図る。

成　　果

1．文字情報・画像資料のデジタル化と目録化を継続して行った。
　ア）当研究所が架蔵する展覧会図録の韓国語データ入力を行った。
　イ）当研究所が架蔵する美術館・博物館等の館報の入力を行った。
　ウ）東京美術倶楽部と共同研究を行い、戦前刊行分の売立目録のデータ入力を行った。
2．明治・大正期刊行の雑誌類のデジタル化を継続して行った。
　・貴重書（山中商会の売立目録）のデジタル化を行い、公開準備をすすめた。
3．より広く当研究所の情報を発信するために国内外の機関との連携を模索した。
　ア）2015（平成27）年6月にアメリカ・ゲッティ研究所において、連携内容を協議した。
　イ）英国セインズベリー日本藝術研究所採録の日本美術および同研究に関する英語文献・記事情報を「東京文化財研究所総合検索」で利用できるようにした。2016（平成28）年2月に現地で進捗状況・今後の方針を協議・確認を行った。
　ウ）2015（平成27）年5月、7月、2016（平成28）年3月に国立西洋美術館と連携内容を協議し、美術展覧会図録所載文献情報のOCLC搭載のための協議を行った。
4．資料閲覧室の公開・運営を行うとともに、文化遺産国際協力センターが架蔵していた図書を搬入し、資料閲覧室で一元管理・公開を行うようにした。

資料閲覧室の運営

・公開日数134日、利用者数のべ954人。

新たな資料の受け入れ数

・和漢書1,306件、洋書33件、展覧会図録・報告書等4,264件、雑誌1,580件（合計7,183件）

データベース公開件数

・「東京文化財研究所　総合検索」（34件のデータベースの統合版の拡充）

研究組織

○津田徹英、山梨絵美子、二神葉子、小林公治、塩谷純、小林達朗、皿井舞、安永拓世、橘川英規、城野誠治、福永八朗、田所泰（以上、企画情報部）、久保田裕道（無形文化遺産部）、早川泰弘（保存修復科学センター）、吉田千鶴子、片山まび（以上、客員研究員）

無形文化遺産に関わる音声・画像・映像資料のデジタル化（③無03-15-5/5）

目　　的

無形文化遺産部が所蔵する音声・画像・映像資料のデジタル化。第1期中期計画（平成17年度終了）の事業案策定後の購入・寄贈にかかるアナログ資料を中心に、これまでに収集蓄積してきた分野を補完する資料の媒体転換を重点的に実施する。併せて、デジタル化を済ませた音声資料は、インデックス付与を含む整理を推進する。この事業は、将来的には資料のデータベース公開と音声・画像等の配信を目指すものである。

成　　果

1．映像資料については、再生不可となることが危惧されるHi８（ハイエイト）を中心に媒体変換を行い、DVD22枚を作成した。
2．音声記録のデジタル化は、前年度に引き続き、1960年代に放送された純邦楽関連のテープ録音を中心に収録内容を確認した。また民謡テープ109本（約74時間）についてもデジタル化を実施し、収録内容の確認を行った。
3．カセットテープに関しては、旧芸能部所蔵テープの内、寺事の現地録音を中心に内容確認を行った。
4．無形文化遺産関連の映像資料362枚（作成DVD140枚・作成BD222枚）を所蔵資料として新たに登録した。

研究組織

○飯島満、高桑いづみ、久保田裕道、石村智、菊池理予、今石みぎわ、佐野真規、橋本かおる（以上、無形文化遺産部）

広報企画事業（ニュースレター・概要・年報）（③企08-15-5/5）

目　　的

研究所の業務に関する情報発信のうち特に紙媒体である『年報』『概要』『ニュース』、及び不定期に作成するパンフレットなどの編集・刊行を実施する。また、エントランスロビーにおけるパネル展示などを通じて、来訪者に対しても研究所の活動をわかりやすく伝えることを目指す。

成　　果

1．『年報』2014の刊行

2015（平成27）年6月30日付で年報を刊行した。構成は従来通り、機構、年度計画及びプロジェクト報告、その他の研究活動、個人の研究業績、研究交流、主な所蔵資料、研究所関係資料、東京文化財研究所プロジェクト索引とした。発行にあたっては、各部・センターの年報部会員が原稿のとりまとめを行った。

2．『概要』2015の刊行（研究支援推進部企画渉外係が編集を担当）

『概要』2015を刊行した。概要は研究所の組織や活動内容を、写真を多用して日英2カ国語により簡潔に紹介している。各ページの構成の決定や原稿のとりまとめは、各部・センターの概要部会員が行った。

3．『東文研ニュース』の刊行（研究支援推進部企画渉外係が編集を担当）

『東文研ニュース』を日英2カ国語により3回発行した。基本的にはウェブサイトに掲載した毎月の「活動報告」のうち、各部・センターで特に紙媒体でも広報したいとして選んだ記事を掲載する。この他、東文研ニュースには、文化財やその保護に関する特定の話題について見開き2ページにより紹介するコラムや、東京文化財研究所の刊行物の案内、人事異動などを掲載している。

4．パネル展示の調整

1階エントランスロビーに研究成果を伝えるためのパネルを作成し、展示するとともに、その内容に関する小冊子を日英2カ国語で作成した。

・2015（平成27）年3月29日～2016（平成28）年3月23日 「近代文化遺産の保存と修復－東京文化財研究所の関わり－」（保存修復科学センター）

・2016（平成28）年3月24日～ 「選定保存技術－漆の文化財を守り伝えるために」（文化遺産国際協力センター）

研究組織

○二神葉子、山梨絵美子、津田徹英、塩谷純、小林公治、小林達朗、皿井舞、安永拓世、橘川英規、城野誠治、福永八朗、小山田智寛、高橋佑太（以上、企画情報部）

広報委員（概要部会）：岡田健（保存修復科学センター長） 各部門概要部会員：今城裕香*1、林昌宏*2（以上、研究支援推進部）、塩谷純（企画情報部）、今石みぎわ（無形文化遺産部）、吉田直人（保存修復科学センター）、友田正彦（文化遺産国際協力センター）

広報委員（年報部会）：田中淳（副所長） 各部門年報部会員：長澤由美子*1、安川政和*2、今城裕香*1、林昌宏*2（以上、研究支援推進部）、小林公治（企画情報部）、高桑いづみ（無形文化遺産部）、森井順之（保存修復科学センター）、山内和也（文化遺産国際協力センター）

広報委員（東文研ニュース部会）：山梨絵美子（企画情報部長） 各部門東文研ニュース部会員：今城裕香*1、林昌宏*2（以上、研究支援推進部）、皿井舞（企画情報部）、菊池理予（無形文化遺産部）、早川典子（保存修復科学センター）、江村知子（文化遺産国際協力センター）

＊1平成27年12月まで　＊2平成28年1月から